

# 令和5年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- 洗濯板や七輪を実際に使う昔の道具体験を通して、人々の知恵や工夫、努力や苦勞などを感じることができた。工場とのオンライン交流会や消防署見学では、働く人の思いや願いにリアルに触れることができた。また、そういった活動を通して、地域や大田区の学習を通して、地域社会の一員として生活していることに気付くことができた児童が多くいた。
- 新聞づくりの活動を数回取り入れ、友達の作品を読み合うことを繰り返したことで、自分の学んだことを整理したり、まとめたりすることができるようになってきた。
- 地図の見方やグラフや年表の読み取り方の指導を丁寧に行い、関連付けて考えることができるようになってきた。また、資料となる写真と照合しながら、考察する活動を取り入れることによって、社会的な思考、判断力を育むことができた。
- 反復学習が必要な地名などは、クラスで定期的に問題をクイズ形式で出したり、毎回の授業の始めに地図帳で学習した内容と関連する地名を確認する活動を行ったりした。また、知識の定着を図るために他単元でも、関連する内容の既習事項を意図的に問いかけた。立体的な都道府県パズルなどの副教材も休み時間に楽しんでやっている姿が見られ、知識の定着に一役買ったと考えられる。
- 実物教材の提示や ICT の活用などの様々な手法を授業の中で取り入れたことによって、学習内容の関心・意欲を高めることができた。
- 食料生産や情報など可能な単元では、実際に起きたことと結び付けて学習を行うことで、児童が日常生活と学習内容を結び付けて学習することができた。

### (2) 課題

- 地図の見方やグラフや年表の読み取り方の指導を行ってきたが、理解の定着には、個人差があり、そこから関連付けて考えるまでに至らない児童も多いので、繰り返し指導していく必要がある。
- 新聞にまとめたり、発表したりする際に、必要な情報を調べたり、表現したりする力が十分ではない児童が一部いた。
- 学習したことを新聞やワークシートにまとめることはできるが、自分の考えや調べた内容を分かりやすく表現する力が十分でない児童が一部いる。
- 発表やレポート、新聞にまとめる際に、必要な情報を整理したり、表現したりする力が十分でない児童が一部いた。また、与えられたグラフや資料から考察する力が十分でない児童が一部いる。
- 社会的用語を使う際、その言葉の定義をしっかりと理解していないために問題に取り組めない児童が一部いる。
- 日本の位置や、地形、海洋名などは、学習しても知識の定着が不足しているように見られた。指導の工夫が必要であると感じた。
- 資料を読み取る力を高めるために、意図的に地図を用いたり、グラフを掲示したりするような時間を設けてきた。しかし、資料から事実を読み取ることはできても、すすんでその他の事象と比較したり、関係づけたりして、思考を広げることができる児童は少数だった。また、資料から読み取ること自体が難しい児童が一部いる。
- 発表やレポート、新聞にまとめる際に、必要な情報を整理したり、表現したりする力が十分でない児童が一部いた。また、学習した事実を新聞やワークシートにまとめる力はあるが、その事実を踏まえて自分が考えたことを表現する力が十分でない児童がいる。
- 近代史において、人物中心学習でなくなった途端、知識が定着しない児童が増える。特に明治時代に起こる事象は知識量も多く、より指導の工夫を図る必要を感じた。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った。 ○…目標値と同程度。 △…目標値を下回った。

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	◎	◎	
第5学年	◎	◎	◎
第6学年	◎	◎	◎

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値より上回っている。知識・技能は、十分に身に付いている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値より上回っている。思考・判断・表現は、十分に身に付いている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値より大きく上回っている。主体的に学習に取り組む態度は、十分に身に付いている児童が多い。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生は、4学年の学習が定着しており、ほぼ全ての単元において5ポイント上昇している。</li> <li>6年生は、ほぼ横ばいだが、「情報」や「漁業」の単元が相対的に低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5年生は目標値より大きく上回っている。</li> <li>6年生は、目標値より上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標値より上回っている。主体的に学習に取り組む態度は、十分に身に付いている児童が多い。</li> </ul>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの活動では、知識を定着させたり、日常生活と結び付けさせたりできるように、キーワードを使って、図に表したり、文章にまとめたりする活動を多く設ける。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたことを白地図や新聞などにまとめる時間を設け、表現する技能を伸ばす。(指導計画)</li> <li>調べ学習では、調べた理由、調べたこと、考えたことなどに体系立てて区別し、表現する力を養う。(授業構成)</li> <li>社会的な事象とその要因とを関連付けて考えられるように、見学したことから、働く人の思いや願いを考えさせたり、その工夫をノートや新聞作りに活用させたりする。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時に、実物を掲示したり ICT を活用したりするなど、児童の日常生活と結びつける活動を取り入れ、児童に学習への必要感をもたせる工夫をする。(指導計画)</li> </ul>

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめの活動では、知識を深めたり、日常生活と結び付けさせたりできるように、キーワードを使って、関係図を作成させたり、文章にまとめたりする活動を多く設ける。(指導計画・授業構成)</li> <li>動画や資料集を活用したり、日常生活との関連性を見つけたりする活動を設定し、児童の印象により残りやすい授業の工夫を行う。(指導計画・授業構成)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連する人々の思いや願いを考えさせたり、その工夫をノートや新聞作りに活用させたりする。(指導計画・授業構成)</li> <li>文書資料と表や図、グラフの資料を、線で繋がせたり、吹き出しを書かせたりして、関連付ける。(指導計画・授業構成)</li> <li>分かったことや考えたことをまとめる時間を設け、知識をさらに深めたり、広げたりする時間を設ける。(指導計画)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の関心・意欲を高めるために、社会科見学や実物教材の持ち込み、ICT の活用などの様々な手法を授業の中で取り入れる。(指導計画・授業構成・学習環境)</li> <li>児童が主体的に学習に取り組めるように、学習問題を解決するための計画を自分で考える場面を増やす。(指導計画・授業構成)</li> <li>複数の資料を関連付けて、調べたいことや疑問に思ったことを整理することができるようにし</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・調べた事柄を関連付けたり、対比したりする時間や、対話の時間を増やす。(授業構成)</li></ul>	<p>ていく。(指導計画・授業構成)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・導入時に、身近な生活とのつながりを意識できる発問をしたり、動画を見せたりし、学習課題に対して「追究したい」と思わせるような授業を行う。(指導計画・授業構成)</li></ul>
--	---	--